



薬局サーベイランスの 活用例

2010年1月24日大日班会議報告資料より

平成21年度厚生労働科学研究費補助金地域健康管理研究事業
「地域での健康危機管理情報の早期探知、行政機関も含めた
情報共有システムの実証的研究」

研究代表者：国立感染症研究所感染症情報センター大日康史

佐賀県における 新型インフルエンザ対策の試み

～地域での健康危機管理情報の早期探知と
情報共有システムの実証的研究～

佐賀県健康増進課
感染症・新型インフルエンザ対策推進担当
大木 康史主任
佐賀県杵藤保健福祉事務所
感染症対策担当係長
森屋 一雄



薬局サーベイランスについて



目的



抗インフルエンザ薬の処方状況により
患者数の増加等の予兆をリアルタイムに
把握する



薬局サーベイランスについて



概要



参加保険薬局数103施設(H21年1月現在)

(参考)

- ・全薬局 527施設
- ・EMシステム導入薬局数 約300施設



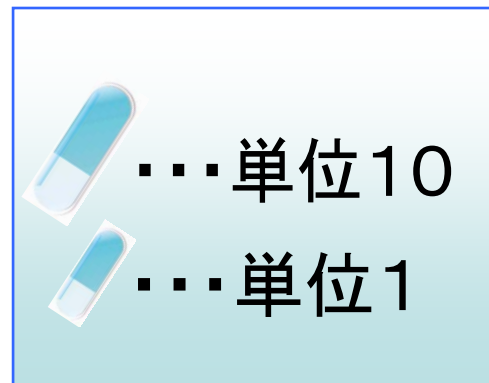
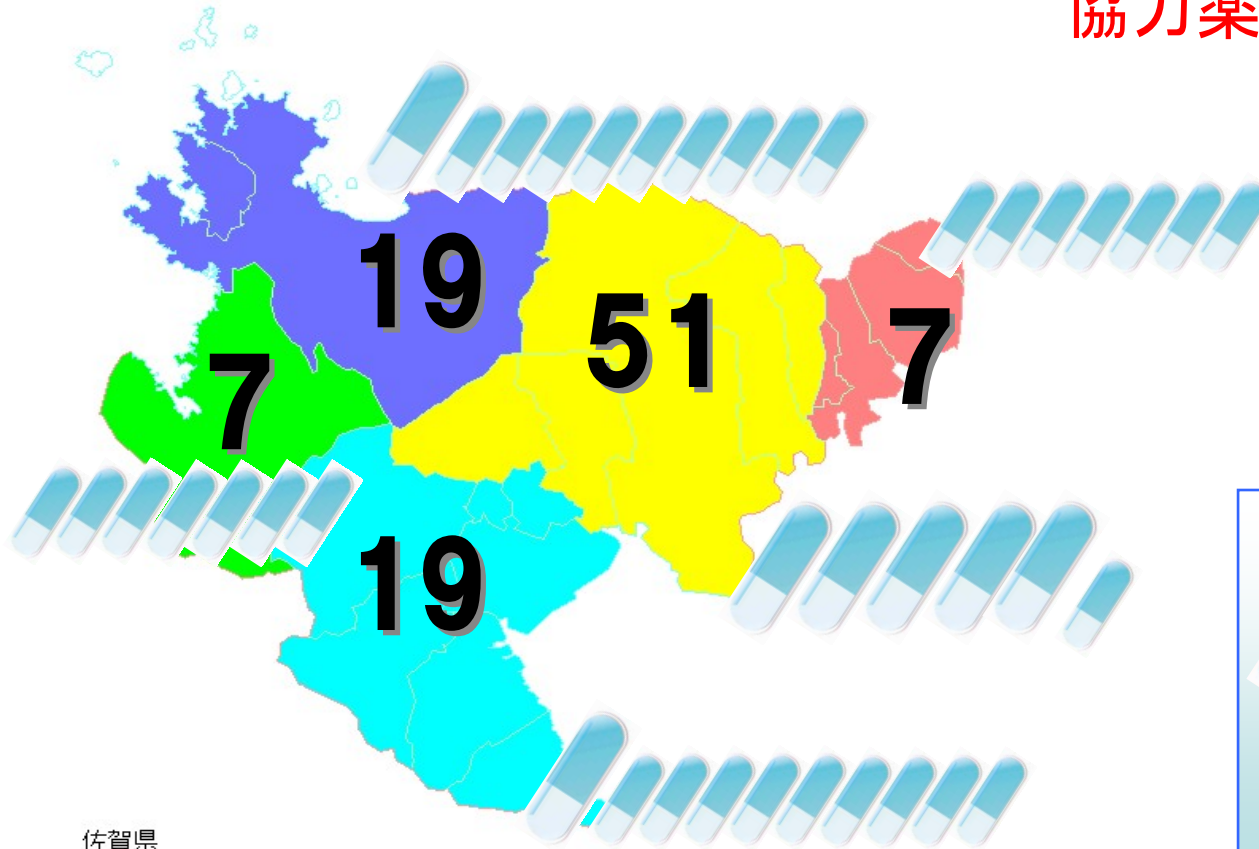
試行開始日 2008年11月



薬局サーベイランスについて

国土地理院承認 平14総複 第149号

協力薬局数と地域分布



佐賀県



薬局サーベイランスについて

○昨年提示した新型インフルエンザに対してのシステムへの課題

課題①

新型インフルエンザの発生の予兆（早期探知）
を捕らえるためのシステムとしての期待

課題②

まん延期の患者数把握システムとしての期待

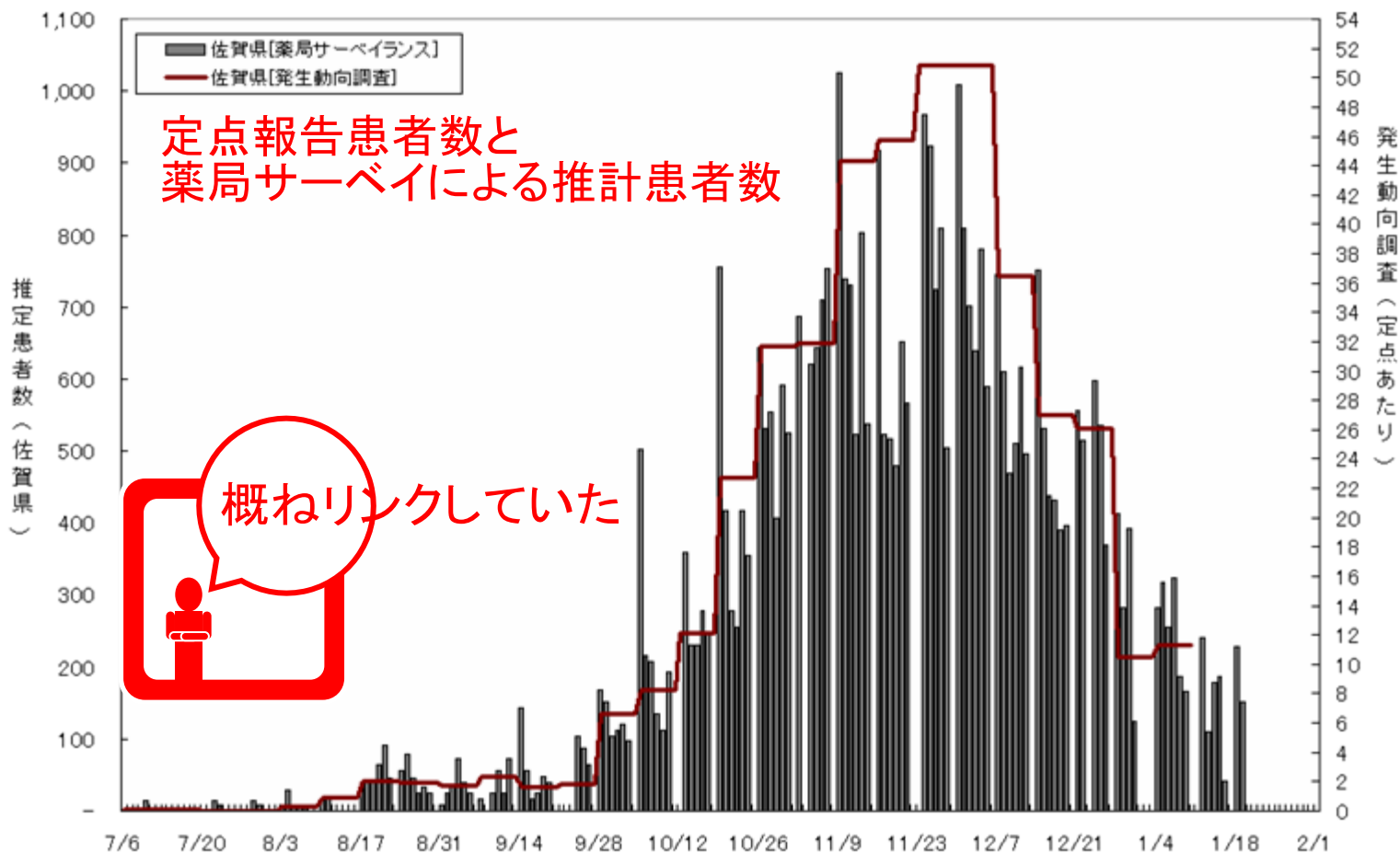
課題③

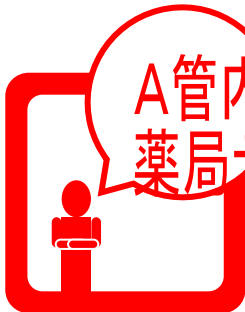
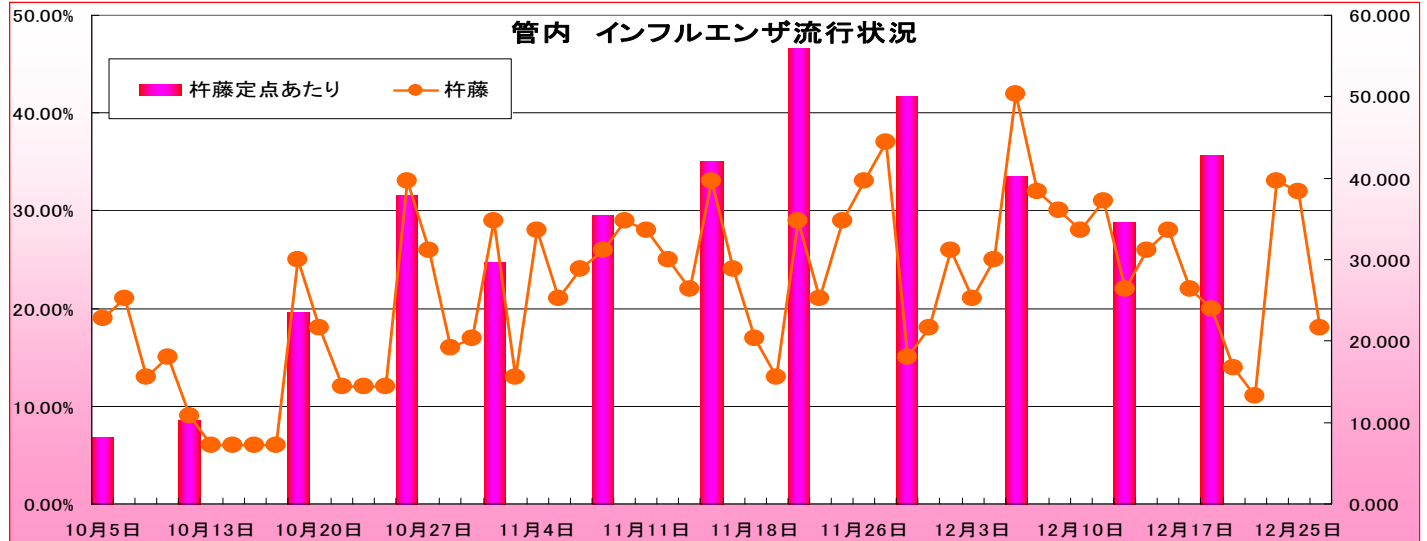
タミフル在庫状況把握システムとしての期待

➔ **薬局のカバー率を上げたい** ・ EMシステム以外における自動収集
・ もしくは、手入力の簡素化



薬局サーベイランスについて





A管内の患者数増加が
薬局サーベイでとらえられていない!



薬局サーベイランスについて



導入後の現場からの意見(その1)



導入してよかった点

- ・感染症発生動向調査の患者報告数と概ねリンクしていた。
→他のサーベイデータと組み合わせて流行予測が可能であった。
- ・全数報告停止後の流行状況の早期探知が可能であった。
- ・年末年始の流行状況の参考値として有用であった。





薬局サーベイランスについて



導入後の現場からの意見(その2)



今後検討すべき点

- A地域の流行が捉えられなかった
→ 抗インフルエンザウイルス薬を常時処方する薬局が参加していない
- 地域処方数格差が流行実態を表しているのか、
薬局の把握率の差なのかわからなかった。
- データを地域の関係機関に積極的に還元ができなかった。





学校、薬局、感染症サーベイランスについて



保健所で実際活用してみて



感想

- 3つのサーベイを組み合わせることで、流行予測が可能と思われた。
- 発生患者の地域的流行を正確にとらえるためには、それぞれのシステムに施設差、地域差（感度差）があると思われ、継続的な検証が必要だと思われた。

